

資料番号	4
------	---

令和6年7月3日
課名 地域政策局公共交通政策課
担当者 担当課長（交通活性化担当）矢島
内線 2585

芸備線再構築協議会第1回幹事会の開催結果について

1 概要

芸備線 備後庄原駅～備中神代駅間の交通手段再構築を議論する「芸備線再構築協議会」の円滑な運営を図るため、実務的・機動的な下部組織として幹事会が設置され、令和6年5月16日に、第1回幹事会が開催されたので、その結果について報告する。

【芸備線再構築協議会の概要】

- 対象路線：芸備線
- 特定区間：備後庄原駅（庄原市）～備中神代駅（岡山県新見市）
- 構成員：中国運輸局（議長）、岡山県、広島県、新見市、庄原市、三次市、広島市、JR西日本、学識経験者 ほか
- 位置づけ：特定区間の交通手段再構築を協議する場
※広域的な見地から特定区間以外の区間も含めて広島駅～備中神代駅間の区間について議論を行う。

2 現状・背景

令和5年10月3日 JR西日本が、地域交通法に基づき、備後庄原駅～備中神代駅間における再構築協議会の設置を要請

令和6年1月12日 中国運輸局が要請区間を特定区間とする芸備線再構築協議会の設置を決定

3月26日 第1回芸備線再構築協議会の開催

5月16日 芸備線再構築協議会第1回幹事会の開催

3 議事

- (1) 芸備線再構築協議会幹事会規約別表の変更について
- (2) 今後の協議における共通認識について
- (3) 幹事会における検討の進め方について
- (4) 調査事業の検討について
- (5) 協議会・幹事会における予算等の検討について
- (6) その他

4 幹事会において確認した事項

【共通認識と進め方について】

- 具体的なファクトとデータに基づき、より利便性・持続可能性の高い公共交通の実現に向けた最適な交通モードの在り方について、真摯に議論していくこと
- 3年以内を目安とした期間を通じて、持続可能な地域社会の実現、沿線地域のまちづくり、観光振興の観点も含め議論していくこと
- 沿線地域の住民等の関係者の理解が得られるよう、透明性のある議論を行うこと
- 芸備線の利用者を増加させる取組や利用者の利便性、地域への波及効果を高める取組による相乗効果に加え、利用者数とは別の芸備線の価値を見出すことにより、芸備線の可能性を最大限追求していくこと

【調査事業の検討について】

- データに基づいて議論を実施し、既存データ及び新たに把握の必要が生じたデータについて収集と分析を行うための調査事業を実施していくこと

【関係者からの意見聴取の実施について】

- 鉄道の大量輸送特性とは異なる新たな価値・役割の可能性や持続可能な地域公共交通の実現について議論したいとの意見も踏まえ、関係者からの意見を聞いていくこと
- ただし、意見聴取をいつ、どのような形で実施するかなどは、第2回幹事会に向けて調整していくこと

【協議会の予算等の検討について】

- 事業費等については、国が2分の1を負担し、残りを主としてJR西日本と特定区間の自治体が負担することを基本とするが、今後の調査事業の内容等を踏まえ、調整していくこと

5 資料説明及び各構成員の主な発言内容等

(1) 協議に先立って行われた国・JR西日本からの説明について

構成員	主な発言内容
国土交通省	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国鉄改革の経緯及びJR民営化に伴う大臣指針、基本方針に基づき、国の全国的なネットワークの考え方等について説明。
JR西日本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大量輸送という鉄道の特性を發揮できていない線区については、持続可能な地域社会の実現に向けて、持続可能性の高い地域交通体系を地域の皆様と共に創りあげていく必要がある。
広島県	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR西日本の収益が伸びているプラスの状況変化や国鉄改革の経緯を踏まえ、国は内部補助の枠組整理に加え、中山間地域の持続可能性を含めた国土のあり方そのものに関わる課題と捉え、全国的な鉄道ネットワークの方向性を示していただきたい。 ・ JR西日本は、現在の経営状況を踏まえ、内部補助でなぜ維持できないのかを説明してほしい。
庄原市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続きJR西日本に特定区間の運行を担っていただくことで、持続可能性が高くなると考える。 ・ JRがローカル線を維持することが困難な理由が財政的な理由である場合、国の責任において、JRを含めた鉄道事業者の持続的かつ安定的な経営が確保できるよう運行経費の支援など積極的な対策を講じていただきたい。

※ 岡山県・新見市は意見なし

(2) 議事内容に対する各構成員の主な発言内容等について

構成員	主な発言内容
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民、特に沿線住民の日常生活に大きな影響を与えるものなので、そうした観点もしっかり持って議論をしてまいりたい。 ・ 今後の議論を進める上で必要な調査を実施することとなる場合には、各構成員の意見を聞きながら、調査内容を決めてもらいたい。
広島県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通の持続可能性を追求するだけでなく、持続可能な地域社会の実現に向けて、まちづくりや観光の観点も含めた議論や取組を進めていただきたい。 ・ 調査事業などの検討にあたっては、協議会全体のプロセスやスケジュールについて、構成員間で共通認識を持った上で検討を進めていただきたい。 ・ 実証事業などあらゆる取組を通じて芸備線の可能性を最大限追求していきたい。
新見市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「沿線地域の住民等の関係者の理解が得られるよう、透明性のある議論を行うこと」については特に配慮いただきたい。 ・ 意見聴取の実施にあたっては、その内容や時期について構成員との協議をお願いしたい。

庄原市	<ul style="list-style-type: none"> 他の交通モードの状況も把握した上で、芸備線と他の交通モードをどのように組み合わせると公共交通を維持できるかJRに実態を見ていただき議論していきたい。
呉工業高等 専門学校 神田教授	<ul style="list-style-type: none"> 協議会での検討にあたっては、地域に住み続けることができるよう、地域の将来像や駅周辺のまちづくり、特定区間だけでない経済効果を評価・把握する必要がある。

6 今後の対応

県としては、今後の検討にあたっては、協議会全体のプロセスやスケジュールについて、構成員間で共通認識を持った上で、芸備線の可能性を最大限追求できるよう、議論を進めていく。

また、国に対しては、「内部補助の枠組整理を踏まえた全国的な鉄道ネットワークの方向性」などについて、可能な限り早期に整理いただくよう、引き続き要望していく。

7 その他

(1) 今後のスケジュール

令和6年7月頃 芸備線再構築協議会第2回幹事会
 秋 頃 第2回芸備線再構築協議会
 令和7年3月頃 第3回芸備線再構築協議会
 (以降、順次開催)

(2) 予算(単県)

—